

第1講座 「会津若松市議会の挑戦～政策形成サイクルの確立～」

講師＝目黒章三郎氏(会津若松市議会議長)

会津若松市議会は、議会改革に関して全国で最も先進的とされる議会であり、その取り組みは全国の議会から模範とされる議会の一つです。

会津若松市議会は、議会が市民意見をどのように取り入れるかという課題に先進的なアプローチをされているわけです。特に、住民意見を取り入れるシステムを作り、それを定式化しているのが特徴でしょう。

目黒章三郎氏(会津若松市議会議長)は2期目の議長であり、その取り組みを多くが評価されるものでしょう。

その「市民の声を政策化」とされる在り方は、政策サイクルの主要ツールとして以下の点が提起されています。

- ① 市民との意見交換会～意見聴取
- ② 広報広聴委員科会～意見整理→
問題発見→課題設定
- ③ 政策討論会～問題分析→政策立案

住民向けには、「見て、知って、参加する ための手引き書」というわかりやすいパンフレットが作成されています。

この目黒章三郎氏(会津若松市議会議長)と私は、旧知の中であり、政務活動費の使途に関して、大きな社会的事件が相次いで発生した、有名な TV 番組(2014.8.4 テレビ朝日、ビートたけしのTVタックル)と一緒にスタジオ出演した間柄でした。自治体議会の政務活動費に関して、当事者として、2人のみが出演したものであり、そのように当事者自身に語らせる番組は珍しいと言えましょう。もとより、われら二人は双方ともが関連して出演したわけではなく、私は急きよの穴埋めに出演したものです。

<私の考え>

議会に取って、住民意見をどのように取り入れるか、ある意味、延々の課題でもあります。

地域意見、階層意見、世代意見などと様々にあると思いますが、それをどのように吸収していくのか、現実はいくつかに分散した意見交換の場が設定されねばならないし、その連続性が課題でしょう。記録性、連続性が保たれなければならぬと思います。

議員が全部一緒に会合に参画するのでは会議が成立しない可能性があり、分散する場合には、元来の地盤を基礎としてするか、持ちまわりの会議設定が必要でしょう。あるいは、委員会別の会議設定になるのが適応でしょう。

まず町田市議会をはじめ比較的に大きな都市の議会においては、大半の議員が政党に属しており、ある意味、その市民意見は各政党（無所属議員は、一個のあるいは多岐の政党グループの一個）が各々吸収するものとも解することができます。議員を選ぶ選挙を通じて、その盛衰で、住民意見を推し量ることも可能と考えられます。

もとより、中央の政治と地方自治体の政治は異なっており、中央の政党システムがそのまま当てはまるとは限りません。それがあつために、我々のような政党無所属の議員集団が無視されないほどのあつるのであつしょう。

町田市議会において、市民参加の手法としては、昨年から実施した「高校生との意見交換会」を充実し、多年代の意見交換会を複数開催して、多岐な意見徴収をするのが現実的なものと考えました。

他方、先のように、市民自身が意見を政治に提起する方法として、政党や政治家と情報を共有したり、あるいはその機関に対して意見を提起する方があつます。

それでは、支持政党を持たない人はどうすべきか、町田市には無所属の議員が多数おり、そうしたバリエーションもそろつてあつます。それでは、そうしたことにかかわることなく、政治に意見発信を行いたい人の立場をどのように確保するかというつ、先の意見交換会を通じて発言の機会を得るのが現実的な手法と考えます。

会津若松市議会の特徴としていくつもあるが、こうした議会改革が自己目的ではない、住民福祉が最終目的に課されているということであつしょう。